

仏・ロレアル 化粧品業界の国際的な学術大会「IFSCC コングレス」に参加 — イノベーションと研究をビジネスの基本とする DNA に忠実に、科学の領域を拡大 —

世界最大の化粧品メーカーである仏・ロレアルグループ(本社:パリ)は、2020年10月21日(水)~30日(金)の期間、初のオンライン開催となった「第31回 第31回国際化粧品技術者会連盟(IFSCC:International Federation of Societies of Cosmetic Chemists / 以下IFSCC) コングレス 2020」にIFSCCの一員として参加しています。IFSCCには、美容業界の主要なステークホルダーを含む49企業が79カ国から参加し、化粧品科学と技術の発展を目指しています。IFSCCに加盟するためには、申請者は、連盟によって決められた最高の科学的・教育的基準を満たしていなければなりません。ロレアルグループは会員として、化粧品研究の発展に積極的な役割を果たすと同時に、連盟の目的の推進やプログラムを支援しています。また、ロレアルグループはIFSCCの発展にも寄与してきました。国際組織の設立につながった1956年の最初の会議、1959年の設立、1960年の第1回大会をはじめ、フランスで開催された4回の大会のうち、3回はロレアルが会長を務めました。

イノベーションと共有

IFSCCの歴史がロレアルグループの歴史と密接にリンクしているのは、科学が化粧品のイノベーションの原動力であるという考えに基づいた同じ価値観を有しているからです。ロレアルのリサーチ&イノベーション部門は、4,000人以上の従業員を擁し、80カ国近くの国籍の人々が働いています。

ロレアルは、世界中で特許を取得した有効成分を活用し、効果的な化粧品を生み出すための研究を行っています。IFSCCと同様、ロレアルではグループ内での国際的な協力と共同作業を重視しています。ロレアルの科学的発展は、先行研究に基づきながら年々進歩していますが、その中でヒューマンファクターは重要な位置を占めています。

ロレアルグループについて (<https://www.loreal.com/>)

仏・ロレアルは、100年以上にわたって美に捧げてきました。36の多様で国際的で独自のブランドポートフォリオを有し、2019年でのグループの売上高は298.7億ユーロ、社員数は88,000人です。世界有数の化粧品会社であるロレアルは、マ ス市場から百貨店、調剤薬局、ドラッグストア、美容院、トラベルリテールや旗艦店、Eコマースなど、あらゆる流通チャネルで展開しています。4,100名の研究員を有し、研究開発をグループ戦略の基幹に置き、世界中の人々の美への熱望を叶えるために日々活動しています。野心的で持続的発展を目的としたロレアルグループの2030年に向けたサステナビリティの取り組みは、よりインクルーシブでサステナブルな社会実現のためのエコシステムの実現を目指しています。

日本ロレアルについて (<http://www.nihon-loreal.jp/>)

ロレアルは1963年から日本で事業を開始し、1996年に日本法人である日本ロレアル株式会社が設立されました。2019年時点での社員数は、2,670人、2020年10月現在の取り扱いブランドは17です。化粧品の輸入、製造、販売、マーケティングを行っています。

日本ロレアルリサーチ&イノベーションセンターについて

日本における研究開発は1983年にスタートし、現在、日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンター(所在地:川崎市溝の口、所長:マチュー・キャシエ)として、戦略的なイノベーション拠点としての役割を担っています。数ある外資系化粧品企業においても、もっとも歴史ある研究開発部門であり、いち早く日本の文化、歴史、社会を深く理解し、200名以上の研究員が日本人消費者のための製品開発を行っています。

¹ IFSCCは世界各地の化粧品技術者会から成る国際機関で、現在79カ国、49の団体が加盟し、約16,000名の会員を擁する化粧品の科学・技術に関する世界最大の学会です。学術大会として、西暦偶数年に各国の化粧品研究者が最新の研究成果を発表・討論する本大会「IFSCC Congress」を、西暦奇数年には若手研究者の教育や発展途上の加盟国への啓発を目的に中間大会「IFSCC Conference」を開催しています